

氏名 よし しば み き 紀 教授



主な研究テーマ

- 本学英語新カリキュラム作成と新英語テスト（CASECテスト）導入
- 本学における留学生の地域交流等について

平成25年度の研究内容とその成果及びこれからの研究の展望

1) 平成26年度からの新カリキュラム施行に向けて、他大学の英語教育の現状について資料収集するとともに、本学のこれまでの英語教育を振り返り、現行のカリキュラムの問題点等を探り、センタースタッフとともに新カリキュラム作成に力を注ぎました。まず、新カリキュラム施行前に平成25年度より取り組んだのが、平成13年度始まった業者テストを使った英語プレイスメントテスト（4月）と英語アチーブメントテスト（2月）を、これまでの筆記テスト（実用英語検定協会の「英語能力判定テスト」）からコンピュータを利用した「英語コミュニケーション能力判定テストCASECテスト」に変更したことです。このCASECテストの特徴は以下の5つです。

- ①短いテスト時間（平均40～50分）：受験者の能力に合わせて、問題の難易度を変えていくため、ペーパーテストに比べ短時間で測定が可能である。
- ②結果がその場で確認できる：テストが終了するとその場で採点され、すぐスコアが

表示される。

- ③その他の英語テストの目安も分かる：TOEIC目安点数、TOEFL目安点数および英検級の目安が分かる。
- ④IRT（項目応答理論）の研究で実現された高い判定精度：IRTに基づき、共通尺度で測定できるテストである。
- ⑤インターネットでいつでもどこでも受験できる：インターネットに接続されたパソコンがあれば、いつでもどこでもテストを実施することができる。

CASECテストはパソコンのある4教室に分かれ実施したため、スポーツ情報センターや教務課等の協力をお願いしましたが、学生の反応を見る限り、変更してよかったですと思います。

まず、パソコンとヘッドセットを利用するため、学生が集中して受験する様子が見てとれました。また、受験後すぐにモニターにスコアが表示されるため、学生も熱心にメモを取るなどしていました。終了後の本学へのテスト結果等の送付も迅速で、4月の授業開始等に十分間に合いました。

次に、新カリキュラムについてです。こ

これまで英語科目は4単位必修でしたが、新カリでは「英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ」の8単位必修となりました。本学に入学してから少なくとも2年間は、英語を学習する枠組みができたわけです。また、これまで英語プレイスメントテストの結果により、下位5、60名にリメディアル「英語基礎」を受講させていました。新カリでは、学年全体をテスト結果により5レベル6クラス（基礎①②、初級A、B、C、中級）に分け、指導することとなりました。また教材も各レベル別を選び、各レベルの目標（中級レベル：英検2級以上）を掲げ、担当教員だけでなく学生にも周知することとしました。

平成26年度の新カリキュラム施行に向け、平成25年2月には英文資料を作成して、英語科目担当の非常勤講師に集まってもらい、新カリキュラム説明会を国際交流センターで開催しました。2時間にわたる説明会は、非常勤からも意見を寄せてもらい充実した会議となりました。

これからの展望ですが、平成25年度と新カリキュラム施行の26年度でCASECテストの結果を比較し、レベルによるクラス分けの効果や問題点等をみていく予定です。

2) 留学生教育については、平成25年8月鹿児島大学で開催された「平成25年度鹿児島地域留学生交流推進会議」で本学が発表当番で国際交流センター長として発表を頼まれたため、これまでの本学での地域との交流事業について関係部署や留学生からも

写真を含む資料を収集しまとめることとしました。まず発表では、前回平成17年の本会議の発表で述べた地域に留学生の支援者を育てる必要性と4つの方法（留学生の存在を知らせる機会の提供、地域における留学生理解および多文化／異文化理解の促進、日本人学生・留学生・地域住民が交流する場の提供、大学と地域のリソースの相互活用）について述べました。本学での交流事例としては、留学生主体で実施した『留学生シンポジウム』や、NIFS SCO-OPプログラムによるカナダ交流協定校留学生のNIFSスポーツクラブへの参加、交換留学生の部活動への参加、SPORTEC2012など就職支援事業への参加、かのや夏祭り総踊りへの参加、地域での留学生による語学(中国語、韓国語)教室の実施、マリンフェスタ2013やビーチクリーンアップなどスポーツ交流やボランティア活動への参加等を紹介しました。最後に、留学生の地域交流の条件を3つ紹介しました。

- ①留学生に日本人と本気でつきあってみようという交流意欲があること。
- ②地域に留学生を受け入れる雰囲気があること。
- ③大学が留学生と地域を結ぶ役割を果たすこと

これは、シンポジウムの基調講演講師九州大学留学生センターの白土悟先生が教えてくださいました。今後も、留学生教育に積極的に携わっていきたいと思います。